

オンデマンド教材を活用した「被服構成学実習」における ハイブリッド授業の効果

末弘 由佳理, 中西 直美, 山川 海音

(要旨) COVID-19 感染症パンデミックにより, 多くの大学において, 遠隔授業の実施を余儀なくされ, 武庫川女子大学(以下, 本学とする)においても令和 2(2020)年度前期及び, 令和 3(2021)年度前期期間を中心として遠隔授業が実施された。

本稿では, 武庫川女子大学 生活環境学部 生活環境学科 アパレルコース 2 年生¹⁾前期開講科目「アパレル構成学実習Ⅱ」において, 回毎に対面授業, 遠隔(オンデマンド型)授業の方法で実施方法を分けたブレンド型のハイブリッド授業の実践から, その有効性を検証した内容について報告する。

キーワード : オンデマンド, 遠隔授業, ICT, ハイブリッド, 被服構成学, デジタル教材

1 研究背景・目的

被服構成学実習は, 対面において授業を実施することが当然と考える科目内容であると言え, これらの内容の科目は, 通信制の大学においても, スクーリングにおいて, 対面で実施されることが一般的である。

2020 年 4 月には, 本学の所在地である兵庫県に対して, 1 回目の COVID-19 感染症緊急事態宣言が発令され, 自粛生活を余儀なくされた中, 本学においては, 実験・実習を含む全ての授業において, 遠隔での授業実施が基本的な方針となった。

自粛生活という環境下, 各大学において, 対面授業が不可能な故の遠隔授業を実施するしか方法がないというような事情から遠隔授業が実施された背景が予測されるが, 1 回目の緊急事態宣言発令から 1 年以上が経過した現在, 遠隔授業のメリットについて複数の報告がなされている^{2)~4)}。

本研究では, 遠隔授業 2 年目を迎えた令和 3(2021)年度に実施した対面・遠隔(オンデマンド型)授業のブレンド型ハイブリッド授業において, 本科目の課題の提出方法・状況, 質問の中身やデジタル教材の利用率等を通して, ポストコロナ時代を目指した授業様式について検討することを目的とする。

2 「アパレル構成学実習Ⅱ」の遠隔授業

(1) 授業カリキュラム

「アパレル構成学実習Ⅱ(以下, 本科目とする)」は, 1 年生後期開講の「アパレル構成学実習Ⅰ」に続く被服構成学の基礎的な知識・技術を身につけること

を目的とした被服構成学の実習科目である。本科目は, 90 分 1 コマ/週で開講する科目であり, ノースリーブ, ノーカラーのワンピース 1 点を教材アイテムとして扱っており, 製図, 材料の選定, 縫製等の被服を構成する一連の工程を学ぶ内容である。

(2) 対面授業と遠隔授業の運営方法

令和元(2019)年度以前は, 対面授業で実施していたが, その際には, 授業開始後 10~30 分の時間を用いて, 一斉説明を行い, その後に各自が作業, その間に教員・助手が机間指導をするという方法であった。令和 2(2020)年度は, 学期開始時点から遠隔の方法で授業がスタートし, 学期終了までの全期間が遠隔授業であることが 4 月時点で決定していた。また, 遠隔授業の方法は, 担当者に一任されており, 本科目においては, Google Meet を用いてのライブ型の遠隔授業を行った。一方で, 令和 3(2021)年度は, 緊急事態宣言が前期開始後に発令されたことから, 学期途中で遠隔授業に変更することとなった。授業方法が変更となった時点では, 本科目においては, 既に 3 回の対面授業がなされていた。また, 令和 3(2021)年度は, 緊急事態宣言に即した形で遠隔授業を実施するとの大学の方針であり, 学期途中で対面授業に再び切り替わることが予測された。また, 遠隔授業の方法については, 原則的にオンデマンド型との大学の方針があり, この 2 点が, 令和 2(2020)年度との大きな違いである。

(3) 遠隔授業に伴う授業内容の変更

令和 2(2020)年度は, 遠隔授業がスタートする段階で, 学期終了時までの全回を遠隔授業であることが

Yukari SUEHIRO 武庫川女子大学 生活環境学部 生活環境学科 准教授

Naomi NAKANISHI 武庫川女子大学 生活環境学部 生活環境学科 助手

Kaine YAMAKAWA 武庫川女子大学 生活環境学部 生活環境学科 助手

Effect of hybrid classes in "clothing construction practice" using on-demand teaching materials

決定していたため、遠隔において可能な方法、対面ではないと不可能なこと等を整理し、スタートの時点でいくつかなの変更を決定し、製図方法の変更、仮縫い工程の省略、縫製工程の変更の主に3点を変更した⁴⁾。令和3(2021)年度は、緊急事態宣言の解除を受けての、対面授業への移行を鑑み、スタート時点では、変更せず、仮に全回が遠隔になった場合には都度の変更をしていく方法とした。結果としては、15回中、6回が対面授業、9回が遠隔授業となり、工程の変更箇所としては、仮縫い工程の省略の1点であり、概ね対面授業と同等の内容を担保することができた。

3 作成したオンデマンド教材

令和3(2021)年度は、前期開始当初には緊急事態宣言が発令されておらず、対面の方法で授業を開始していた。

本科目では、欠席者対応として、対面授業時の一斉説明を録画し、授業後に配信していた。表1に示す18本の教材動画は、令和3(2021)年度の本科目の授業に用いたものであり、グレー網掛けの箇所が対面授業を実施した回のものである。内、1～4、13、16、18が対面授業の一斉説明の録画である。15、17は、対面で実施する上でも繰り返し説明が必要との考えから事前に収録したものである。その理由としては、理解に至るまでの時間は学生個々に異なることや、知識の定着の観点から繰り返し説明の有効性が高いとの考えからである。

事前に収録した教材動画においては、動画の長さが長くなり過ぎないことを心掛け、概ね25分以内となるように作成した。対面授業の録画については、授業での一斉説明そのものであるが、2の動画のみ約49分と他と比較して時間が長い。その理由としては、製図にはこの程度の時間がかかるためであり、仮に分割した動画にすることは編集すれば可能であるが、製図の工程を一連の流れで確認できるほうがよいと考えたためである。

令和元(2019)年度以前の対面授業では、一斉説明の際に、説明する教員の周りに学生が集合し、布等の実物を目の前で見ながら、説明を聞く方法をとっていた。この方法は目の前で実物が見られるメリットがあるが、一方で、集合している複数名の学生の立ち位置は個々に異なることから、それぞれの場所によって見え方に差があること、メモが取りにくい等のデメリットとなる点もあった。昨今、書画カメラの性能が上がる中、少しずつ画像を通しての説明が可能なものに関しては書画カメラを通しての一斉説明を実施していたが、近くで見る必要のあるものについては集合形式で

実施していた。

令和2(2020)年度の全回遠隔授業の経験を通して、集合型ではない一斉説明を行った経験に基づき、書画カメラを通しての一斉説明の方法があること、また、感染症対策として一箇所への集合は避けるべきであることから、令和3(2021)年度は、集合型の一斉説明ではなく、対面授業でもパソコンを通してスクリーンに投影する方法とした。カメラとパソコンを接続しておくことにより、説明を行う教員本人が録画の操作をすることができ、この点は授業を実施しながら、録画をする上で大変有益なことであった。

表1 作成した18本の教材動画

| 授業 実施回 | 内容 | 動画の長さ (mm:ss) |
|-----------|-------------------------|------------------|
| 第1回 | 1 ワンピース(身頃)の作図① | 11:06:00 |
| 第2回 | 2 ワンピース(身頃)の作図② | 49:32:00 |
| 第3回 | 3 身頃パターンの調整 | 19:37:00 |
| | 4 身頃パターンの整理 | 19:30:00 |
| 第4回 | 5 ワンピース(スカート)の作図 | 23:14:00 |
| 第5回 | 6 パターン完成後の地の目及びあきどまりの確認 | 24:56:00 |
| 第6回 | 7 縫い代設定 | 21:54:00 |
| 第7回 | 8 縫い代設定後の配置及び裁断線 | 12:21:00 |
| 第8回 | 9 裁断・しるしつけ・裁ち端の処理 | 6:19:00 |
| 第9回 | 10 ダーツ及びパネルラインの縫製 | 14:56:00 |
| 第10回 | 11 スカート脇・後ろ中心の縫製 | 16:09:00 |
| 第11回 | 12 見返しのパターン作成 | 19:02:00 |
| 第12回 | 13 見返し裁断～肩の縫合 | 23:11:00 |
| 第13回 | 14 見返しと身頃の縫合 | 16:18:00 |
| 第14回 | 15 コンシールファスナーのつけ方※ | 20:28:00 |
| | 16 脇の縫製、ウエスト結合 | 22:32:00 |
| 第15回 | 17 見返し端の始末※ | 5:28:00 |
| | 18 見返し及びスカート裾の始末 | 22:21:00 |

※対面授業時に用いた事前収録動画

これらの18本の教材動画は、YouTubeにアップロードして、classroomを用いて、必要な回毎にYouTube URLを配信した。

配信スケジュールとして、対面授業の録画は、授業日の夕刻或いは翌日、遠隔授業時については、授業予定日の前日とした。

4 授業毎の小課題の提出方法

対面において授業を実施する際には、机間指導をすることから、学生の作品の途中経過を授業中に確認することができるが、遠隔授業の場合にはそれが不可能である。そこで、授業回毎に作品の状況を写真撮影し、各回の提出物とした。classroomの課題機能を用いて、各自が撮影した写真をアップロードして提出する方法である。教員は、これらの課題を添削し、限定公開コメント機能を用いて、修正の有無や助言を入力し、机間指導の代替措置とした。

図 1 は、その一部（一名の学生分）である。これは、製図したパターンを紙切ばさみを用いて輪郭線でカットし、布の裁断をする直前の状態を提出課題としたものである。写真には影があるものの、添削する上で充分に見ることが可能な状態である。

この提出課題は、令和 2（2020）年度に実施した遠隔授業においても、製図したパターンの提出を課したが、その際には輪郭線でカットをせず、用紙にパターンを描き、紙上でパターンが完成した状態を提出課題としていた。しかしながら、布を裁断する際のパターン配置段階で、誤った箇所パターンをカットしている学生がいることが分かり、カットする箇所に対する添削の必要性を感じた。その経験を元に課した課題である。

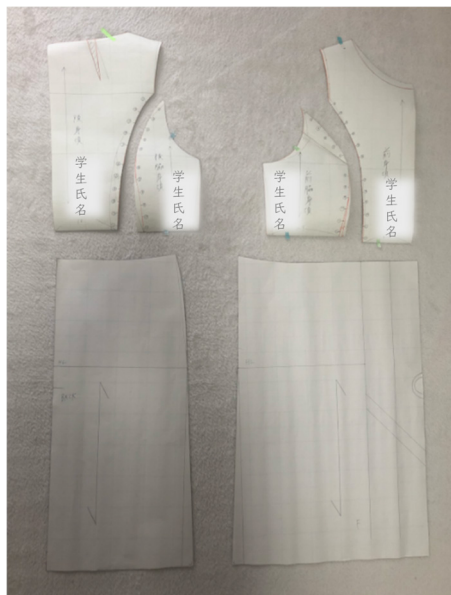


図 1 提出されたパターン（修正前）

提出された図 1 に対して、いくつかの要確認・修正箇所があり、授業担当教員が限定公開コメントにそれらを記した（図 2-①）。

図 2 に示すように、要確認・修正箇所についてコメントを記しているが、内容次第では、画像を必要とする説明が一部にあり（図 2-④）、限定公開コメントの機能には教員側からのファイルをアップロードができないため、画像等を伴う説明の際にはストリームを用いて、画像添付を行っての説明を加えた。限定公開コメント（図 2-⑤）にストリームを用いて説明を行う旨を通知し、図 3 に示すように、画像を添付して、解説した。図 4 は、図 3 の中央に示す画像の全体図であり、図 1 の写真に対して、ペイント機能を用いて教員が書き込みを行い、図 3 に記しているコメントの補助的な役割として示した画像である。

限定公開のコメント 6 件

末弘由佳理 5月12日 • • • ①
 <スカート>
 ①ウエストにダーツがなく、HLでの幅が小さく見えますが、ヒップが入ることを確認できていますか。
 ②脇のカーブは前後で「同じような」カーブにすることが望ましい。

末弘由佳理 5月12日 • • • ②
 <身頃> 前後共にシルエット線横の余白が残って（カット忘れ）いませんか。

学生番号 • 氏名 5月12日 • • • ③
 <スカート>
 ①
 ・スカートにダーツがあった方が良いでしょう。
 ・ヒップは、 $H/4 + 0.5 \pm 1$ に $H = 88$ を当てはめて計算したところ、後ろが 21.5cm、前が 22.5cm になりました。
 1回生のタイトスカートのパターンを測ると、後ろが 22cm、前が 24cm でした。タイトスカートと同様のサイズにした方が良いでしょう。
 ②同じようなカーブになるように修正します。

<身頃>
 すみません。切り忘れていました。修正します。

ご指摘ありがとうございます。修正をして、再提出します。ダーツとヒップに関して、どのようにしてよいのかわからないので、お手数をおかけしますが、ご連絡宜しくお願い致します。

末弘由佳理 5月12日 • • • ④
 学生氏名 さんのヒップ寸法が 88cm ですか。
 ○その場合には、現在確保されている寸法が、 $(21.5 + 22.5) \times 2 = 88$ cm ですので、ゆとりが 0cm になります。
 ○1年時の「後ろが 22cm、前が 24cm」にすると、ゆとりが確保されるので、全く同じでなくてもいいですが、その程度のゆとりがあったほうがいいですね。
 ⇒ヒップサイズを大きくする際に、脇線を平行に動かすとウエスト寸法も上がりますよね。余ったウエスト分をダーツにするとよいです。

末弘由佳理 5月12日 • • • ⑤
 画像で説明したいので、ストリームで添付ファイル付きで配信しますね。

末弘由佳理 5月19日 • • • ⑥
 修正版、確認しました。

図 2 限定公開コメントに記した課題へのコメント

末弘由佳理 ▶ 生徒 1 人
 5月12日（最終編集: 5月12日）

<パターンの修正方法>
 ①ヒップ寸法を脇線から平行に大きくする（青線）
 ②①によりウエスト寸法が必然的に大きくなる（黒線）
 ③ウエスト寸法の余った量をダーツにする（赤線）
 ・ダーツの場所は絶対ではないですが、身頃のデザイン線の直下にするとうまく美しく
 ・ダーツが 3cm を超えた場合には 2か所に分けた方がよい

ヒップ寸法修正の方法...
 画像

クラスコメント 1 件

学生番号 • 氏名 5月12日
 非常にわかりやすく説明していただきありがとうございます。アドバイス通り修正して、再提出します。ありがとうございました。

図 3 ストリームに記した課題へのコメント

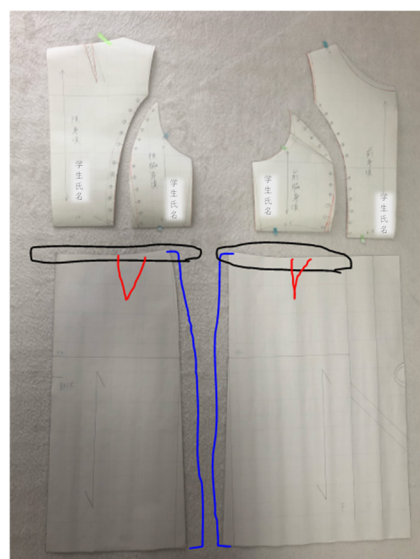


図 4 ストリームにアップロードした説明用画像

図 5 は、提出課題に対して示したコメントに即して、学生が修正をして、再提出されたパターンの写真である。教員から要確認・修正箇所としてコメントを記した箇所である、スカートのウエストダーツ追加、スカートの脇線の引き直し、前後脇身頃の不要箇所の切り取りが完了し、布の裁断に使用できる完成パターンである。

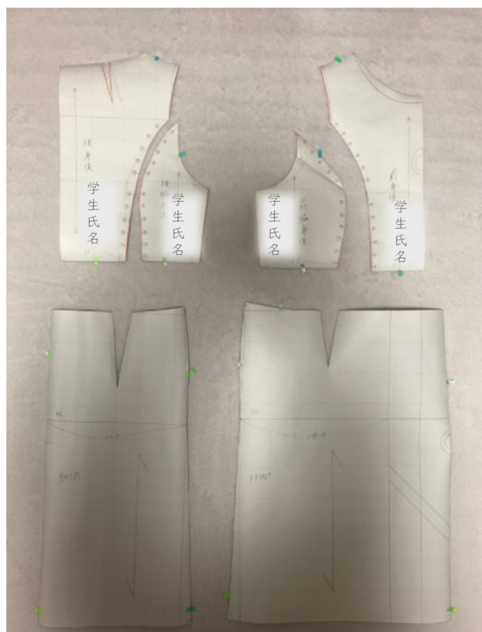


図 5 提出されたパターン（修正後）

授業回毎に、その回に説明をした箇所を写真に納めて提出することを課し（教材動画配信の 1 週間後が期日）、教員がその課題に対する添削として、限定公開コメントに入力し、遠隔（オンデマンド）授業遂行中には、以上のような方法で学生との意思疎通を図った。

5 学生からの質問への回答方法

オンデマンド型で実施している回の質問の受け方については、以下の 2 通りである。

- (1) 授業曜時に Google Meet を開室（対話）
- (2) メール及び Google 限定公開コメント（筆談）

対話による質問が可能となるように、時間割上の授業曜時に Google Meet を開室した（(1)）。設定した時間に質問をすることが可能なように前日の内に教材動画を配信していたが、質問の方法は様々であり、(1)の方法、(2)の方法、(1)と(2)併用等、学生は質問したいタイミングで可能な方法を使って行っているように見受けられた。

図 6 は (2) の方法で質問を行った一例である（限定公開コメント原文ママのため、誤字あり）。図 7 は、図 6-①に示す質問時に添付された写真である。教員からの回答は、図 6-②のコメントであるが、図 6-③のコメントが学生からの 2 回目の質問である。2 回目の質問（図 6-③）時には、図 8 の写真が添付されており、図 8 の写真を確認した時点で、今回の質問の理由となっている原因が布不足によるものだとすることを教員側が気づくことができた。図 6-④のコメントでその旨を学生に伝え、図 6-⑤のコメントの段階で学生自身が理由を理解していることが分かる。このように質問時の言葉の使い方は受け手の理解の仕方等、対面授業においては苦勞しなかった点において要した感は否めないが、画像を使う等の方法で、解決することは可能であった。

次に、図 9 は不足布を買い足した後に後ろスカートパターンを配置したものであるが、この画像から左後ろスカートを 2 枚裁断し、右後ろスカートが存在していないことが疑われたため、教員からその旨を問うた（図 6-④）。それに基づいて修正されたものが図 10 である。

図 6 に示す一連の流れは、対面授業時には机間指導中に対話して解決する内容であろう。遠隔授業においては、机間指導が不可能なため、都度の指導ができないように思われがちであるが、オンライン上でも上記のような質疑応答が可能であった。

また、Google Meet を用いての対話での質問では、上記のような詳細なやりとりではなく、一問一答で解決する内容が大半であった。Google Meet の利用は、回毎に異なり、各自が異なるデザインの製図をする回等には件数が多くあり、全員が同じ内容となる回には質問が全くない、或いは僅少であり、教材動画において理解できたため、質問は不要であったことが示唆された。

対面授業の机間指導の中でも一問一答のような内容もあれば、言葉を何度も交わしての問答もあり、今回用いた 2 通りの質問の方法について、二者に優劣をつける必要はなく、この 2 種の方法を用いて質問を受けることで、机間指導の代替となるのではないかと考えている。

限定公開のコメント 16 件

学生番号・氏名 5月26日・・・①（提出画像：図7）
質問です。
スカートと身頃の生地を分ける予定なのですが、スカートの生地の長さの関係で、地の目方向と反対方向にパターンを置かなければならない状態です。この場合、どうしたら良いでしょうか。
（スカートの生地:布幅110×75cm）

末弘由佳理 5月26日・・・②
前中心をわにしなければならたて方向に配置できないですか。

学生番号・氏名 5月26日・・・③（提出画像：図8）
写真を提出のところに添付したのですが、前中心をわにしない配置とはこのような配置でしょうか。

末弘由佳理 5月26日・・・④
写真を見ますと、前をわにしないことによって解決がつけわけではなく、生地不足が原因ですね。
スカート丈の倍丈プラスαの生地が必須の生地の布ですね。

学生番号・氏名 5月27日・・・⑤
スカート丈の倍丈の生地を追加で用意するようにします。原因が分かって良かったです。ありがとうございます。
お手数おかけしました。

末弘由佳理 5月27日・・・⑥
倍丈でなく、スカート丈分追加で入りませんが、右半身を現布、左半身を追加布。

学生番号・氏名 5月27日・・・⑦
倍丈ではなく、左半身追加で布を用意する事にします。その方が布の節約になりますよね。アドバイスありがとうございます。

末弘由佳理 5月27日・・・⑧
柄がありますから、簡単には合わせたほうがよいです。
左右共全てのパーツの裾を同じラインに合わせる。これが簡単な柄合わせです。
ひとつ前の内容は一例ですので、前と後ろに分けるのもよしです。そうすると前中心はわで入りそうですね。

学生番号・氏名 5月27日・・・⑨
前と後ろに分けた方が前中心をわにする事ができ、その方が少ないパーツで作る事ができるので、後ろの分を追加しようと思います。柄合わせをする事も注意して取り組みたいと思います。
たくさんのアドバイスをありがとうございました。

末弘由佳理 5月27日・・・⑩
やってみてわかりにくい等あれば、meetでの質問も可能ですので、必要な場合には聞いてください。

学生番号・氏名 5月28日・・・⑪
ありがとうございます。

末弘由佳理 5月31日・・・⑫
＜後ろスカート＞
布のよこ方向にまだ余裕がありそうですので、後ろ中心の柄も合わせることができるとかと思えます。後ろ中心の右と左はこんな状態では縫製されますから、縫い合わせた際に柄が連続するように配置すると一連の格子になります。スカート・パンツのテキストにもその解説がありますよ。
現在の配置ですと（下側にある布が同じ柄の箇所と想定して）黒い細い線同士が後ろ中心で合わせることになります。

学生番号・氏名 5月31日・・・⑬（提出画像：図9）
後ろ中心の柄合わせを考慮できていませんでした。ご指摘ありがとうございます。
提出画像の裁断線が見えにくかったので、画像編集で紫色のペンで記しています。

末弘由佳理 5月31日・・・⑭
（裏面が見えていると仮定して）左スカート2枚になっていませんか？重ねて裁たない場合には、片方はパターンを裏返して配置しないと同じもの2枚になってしまいます。

学生番号・氏名 5月31日・・・⑮（提出画像：図10）
すみません。間違えて左スカートを2枚にしていた。訂正しました。ありがとうございます。

末弘由佳理 6月1日・・・⑯
確認しました。

図6 限定公開コメントを用いた質疑応答

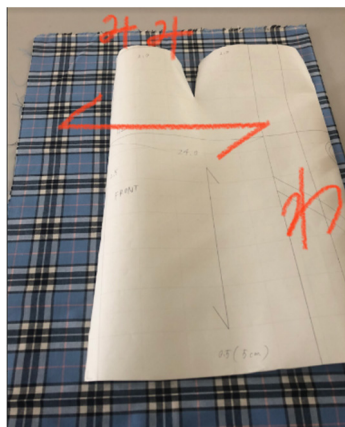


図7 質問に添えられた写真（1回目）

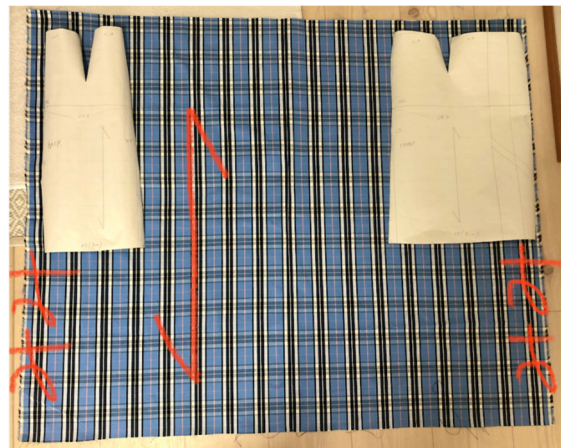


図8 質問に添えられた写真（2回目）



図9 質問に添えられた写真（3回目）

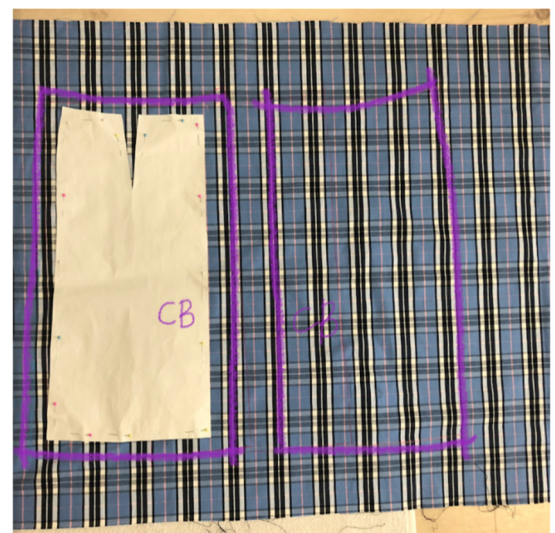


図10 質問に添えられた写真（4回目）

6 教材動画の視聴状況

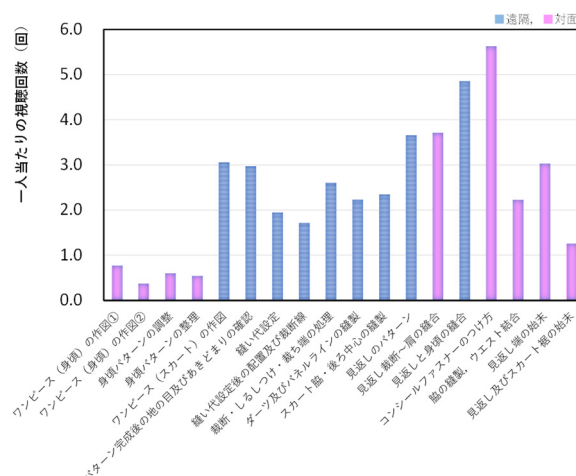
教材動画の YouTube へのアップロード日から、本科目開講の学期末までの視聴状況を YouTube アナリティクスから抽出した。

図 11 (1) は、配信した教材動画 18 本の動画別の一人当たりの視聴回数である。遠隔授業時の教材動画 (5～12・14 本目) の平均視聴回数は、2.8 回/人、対面授業時の動画 (1～4・13・15～18 本目) は、1.8 回/人である。また、全 18 本の平均視聴回数は、2.4 回/人である。図 11 (2) は、一回視聴当たりの再生時間の割合であり、50%未満のものが多いことから、繰り返し視聴する際には、終始を再度視聴しているのではなく、自身が確認した箇所をピンポイントで再生していることがうかがえる。

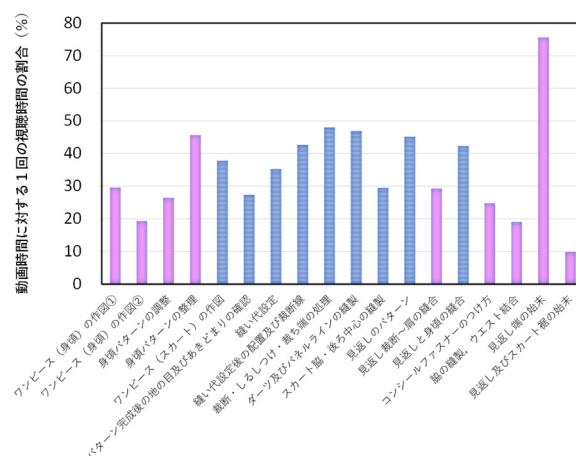
1～4 本目の教材動画は、対面授業時の録画の内容であるが、平均視聴回数がいずれも 1.0 回未満である。授業中に一度聞いた一斉説明で理解が可能であり、再説明を必要としなかった層が多かったということが分かる。対面授業においては、その場で質問が可能であることから、この点は当然と言えば当然であるが、一方で 13、15～18 本目は対面授業を実施した回の教材動画である (内、13、16、18 は一斉説明の録画) が、いずれも平均視聴回数は 1.0 回以上であり、中でも 13 本目の「見返し裁断～肩の縫合」は 3.7 回、15 本目の「コンシールファスナーのつけ方」は 5.6 回である。これら 2 本の動画は、対面授業において、一斉説明において、説明しており、その説明後に、更にこれだけの回数を視聴するということである。この結果から、対面、遠隔いずれの授業方法であっても、教材動画は有効であったと推察する。

令和元 (2019) 年度以前は、本科目を対面の方法で行っていたわけであるが、見返しの縫製とファスナーつけに関しては、一斉説明のみでの理解が困難な層が居ることが予てからの実情であり、一斉説明の後に個々に説明することや、段階見本を学生が手に取って確認する等の行為は常であった。教材動画「見返し裁断～肩の縫合」、「コンシールファスナーのつけ方」の繰り返し視聴の結果と合わせると、一度の説明では理解できない内容と感じる層が多くいることが推察される。教材動画は遠隔授業の際にのみ必要ということではなく、難易度の高い工程においては、対面・遠隔形式の区別なく必要であることがうかがえる。また、図 11 (2) に示す視聴時間の割合の値から、複数回の視聴をする際には、ピンポイントで聞きたい説明の箇所を視聴していることが予測できるが、その聞きたい箇所は個々で違いがある可能性もある中で、本人が操作して再生箇所を選定できるオンデマンド教材は、各々

の理解の向上に必要な教材であると言えよう。



(1) 一人当たりの視聴回数



(2) 一回視聴当たりの再生時間割合

図 11 教材動画の視聴状況

1～4 本目の教材動画は、視聴回数が 1.0 回未満であるが、この結果を受けて、不要と判断するか、一定数の学生からの需要がある以上は必要と判断するかについては、教育的配慮の観点からすると、仮に 0 回であったとしても、教材動画があることでのマイナス要素がない場合には、一助となる可能性のある教材は必要と考えることが賢明であると考えられる。

7 まとめ

被服構成学実習は、対面形式での授業がいわば当然であった中、COVID-19 感染症拡大の影響下で強制的に実施となった本科目の遠隔授業であるが、特にオンデマンド型での実施は、繰り返しの視聴ができることによる理解度向上が顕著であることが分かり、また、対面授業において説明をした内容においても繰り返し

の視聴がなされていることから、教材動画は遠隔授業の際のみに必要ということではなく、難易度の高い工程においては、対面・遠隔形式の区別なく有効な教材と言え、必要であることがうかがえた。本科目においては、対面授業をする中でも教材動画を作成し、フレンド型のハイブリッド授業を行ったが、教材動画の視聴回数からそれらの効果があったことが示唆された。

また、遠隔授業のデメリットとして、質問のしづらさがあると言え⁵⁾、質問受付の体制が学生のニーズと合致すれば、それが解決策だと考えていた感があった。しかしながら、質問という行為は、学生からの能動的な行為であり、一方で、机間指導の際の声かけによる指導は、教員からの能動的な行為であり、学生側は受動の態勢である。遠隔授業の場合には、後者の机間指導が不可能となる環境であることから、Google Meet 等を用いたリアルタイムでの質問受付体制を整えることだけではなく、都度の小課題提出、課題に対するコメントによるフィードバックが重要であると考えることができる。提出された課題に対して、コメントを出すことで、そこから質問へと発展するケースもあり、教員側からの能動的な関わりに重点があるとも言えよう。さらに、遠隔授業初年度は授業を運営する側の教員にとっても初めてのことであったが、そのことは学生にとっても同様である。遠隔授業 2 年目に当たる令和 3 (2021) 年度において、質問の仕方においても学生が慣れてきている感があったと言え、質問がしにくいという意見の中身についても当初の思いと比較すると変化があるのではないかと推察する。

本科目における遠隔授業は、希望して対面授業から遠隔授業にシフトしたというわけではなく、感染症拡大の観点という側面からの理由で開始された。しかしながら、経験をして言えることは、マイナス要素ばかりではないということである。オンデマンド教材の最大のメリットは、繰り返し、そして自分のペースで説明が聞けることである。理解に要する時間は個々に異なり、一様に対面授業時の一度の説明で理解ができるわけではなく、一度での理解が一概に真の理解であるとも言えない。遠隔授業を強いられない状況が戻った後にもオンデマンド教材は残すべき教材であるのではないだろうか。

この 2 年間の遠隔授業の経験を生かし、新しい授業様式として、「対面授業におけるオンデマンド教材の利用」を提案したい。我々教員は、この経験を通して、オンデマンド教材の作成において、多少のスキルアップを成すことができたように感じる。今後は教材のブラッシュアップを目指し、学生の理解が向上し得る教材の作成に努める所存である。

8 補記

本研究の一部は、私情協 教育イノベーション大会で口頭発表した内容⁶⁾を含んでいる。

注及び引用文献

- 1) アパレルコースをメインコースとする学生における履修時期であり、アパレルコースをサブコースとする学生は 3 年生が標準履修学年である。
- 2) 伊藤大河, 秋山高善, 神山友宏, 高木 祥. 共栄大学における遠隔授業の実施と授業評価に関する一考察. 共栄大学研究論集, 19, 137-152, 2020.
- 3) 齋藤陽子. 遠隔授業の実践方法と学生の反応に関する考察～教育の方法・技術における実践より～. 岐阜女子大学紀要, 50, 83-88, 2020.
- 4) 末弘由佳理, 中西直美, 坂田彩美. オンライン授業による被服構成学実習の実践報告－生活環境学科「アパレル構成学実習Ⅱ」を事例として－. 武庫川女子大学 学校教育センター紀要, 6, 188-206, 2021.
- 5) 岩田一男. PC 演習におけるオンライン授業の調査報告～テキストデータ分析結果から～. 公益社団法人私立大学情報教育協会 2021 年度 私情協 教育イノベーション大会資料, 162, 2021.
- 6) 末弘由佳理, 中西直美, 山川海音. 遠隔授業による被服構成学実習の実践報告－オンデマンド形式を中心として－. 公益社団法人私立大学情報教育協会 2021 年度 私情協 教育イノベーション大会資料, 167, 2021.